

多摩市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築協議会 令和5年度第2回 要点録

日 時	令和5年1月29日(月) 10:00~12:00	場所	多摩市役所 西会議室
出席	荒井、池田、伊藤、上田、金森、五味田、塩野目、立山、田中、平松、松田(五十音順・敬称略)		
事務局	障害福祉課		
記録者	事務局		
項目	1 議題 多摩市の地域アセスメントについて 当事者及び関係者への意見聴取 2 次回日程について		
詳細			
1. 多摩市の地域アセスメントについて  事務局より資料の説明	<p><b>【事務局】</b></p> <p>事務局より説明いたします。参考資料1をご覧ください。参考資料1は、令和4年度第2回協議会の資料3をそのまま活用したものです。前回の協議会でも、こちらの資料で、にも包括の役割と今後の協議の流れにつきまして、説明しました。前回から半年程経過しましたので、あらためて説明します。</p> <p>「1 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築協議会の役割」にありますとおり、本協議会の役割は、「①精神障がい者等の地域移行及び地域生活に関する課題の抽出及び対応策等の協議」「②支援関係機関の連携強化及び連携体制の構築」をすることにあります。このことを踏まえ、昨年度から本協議会で協議を始めていただきました。</p> <p>また、「2 今後の協議の流れについて」のとおり、「多摩市の地域アセスメント」「多摩市や各機関の目指すべき姿を検討」「多摩市や各機関の目標を設定」「目標の進捗管理について検討」の順に協議を進めていただくことになっています。</p> <p>前年度の協議会では、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムとは何かということ、国の動向、多摩市の現状と課題などを共有し、協議会の進め方などを委員の皆様アンケートをさせていただきました。</p> <p>今年度は、委員の皆様、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを進める上で各機関の現状と課題について、「機関連携」「普及啓発」「家族支援」「住まいの確保」「ピアサポートの活用」「アウトリーチ支援」「退院後の医療等継続支援」「研修」「地域移行」の9項目の観点から記述した協議シートを作成していただきました。</p> <p>昨年7月に開催した前回の協議会では、協議シートの内容から、「機関連携」「普及啓発」「家族支援」「住まいの確保」の4項目の現状と課題、対応策について、ご議論いただきました。</p> <p>今回は、残りの5項目についてのご議論いただきたいと考えていますが、参考資料1における「2 今後の協議の流れについて」の「多摩市の地域アセスメント(多摩市や</p>		

各機関の現状や課題の抽出)」を今年度、つまり今回でまとめたいと思います。そこで資料1を作成しました。こちらの資料に基づき、残りの5項目についてもご議論をいただき、資料1を今年度の協議会の成果とさせていただきたいと考えています。

次に資料1をご覧ください。

前年度は、事務局から多摩市の概要、精神保健福祉、社会資源の状況などを資料で説明しました。今回は、それらの情報を最新のものに更新して、前回の協議会でご議論いただいたことなどを反映して、資料1のとおり、多摩市や各機関の現状や課題としてまとめました。こちらの説明をさせていただきます。

3頁 はじめに多摩市の現状についてです。

(1)と(2)は多摩市の人口についての説明になります。人口のこれまでの推移は大きな増減はないが、高齢化率は上昇を続けています。また、将来推計は生産年齢人口が減り、高齢者人口の割合は高くなる予測です。

(3)と(4)は精神保健福祉の状況です。手帳所持者数は増加しています。また、自立支援医療費(精神通院)受給者数の推移はゆるやかな増加傾向にあります。

(5)と(6)は入退院の状況です。65歳以上の統合失調症入院者数の人口10万人あたりの指数は全国中央値と比べて高くなっています。

ここで訂正をさせていただきます。資料では多摩市の指数は49.1、全国中央値は46.1となっていますが、正しくは多摩市の指数は45.4、全国中央値は44.5です。申し訳ありません。精神障がい者の退院率につきましては、3カ月未満の退院率は国の目標値に近いですが、1年時点の退院率は国の目標値を大きく下回っています。

4頁から9頁までは3頁の記述内容の裏付けデータになります。

4頁の多摩市人口の推移では、人口は約14万8千人でほぼ変わりませんが、高齢化率は平成30年と令和5年を比べると1.5ポイント増となっています。

5頁の多摩市人口の将来推計では、多摩市の総人口と生産年齢人口が減る一方、高齢者人口の割合が年々増えていくのが見てとれます。

6頁の精神保健福祉手帳所持者数では、令和元年と令和5年の4月1日時点を比較すると1.3倍の伸びとなっています。

7頁の自立支援医療費(精神通院)受給者の推移では、平成30年と令和5年の4月1日時点を比較すると1.2倍の伸びとなっています。

8頁の1年以上の長期入院の状況では、表の上に記述しているとおり、65歳以上の統合失調症入院患者数の人口10万人あたりの指数は全国中央値と比べて高いですが、多摩市は全体の人口10万人あたりの指数では、表の中の記述のとおり、65.1と全国中央値82.3より低い状況です。

9頁の精神障がい者の退院率では、多摩市における3カ月未満の退院率は65歳未満と以上を合わせたもので63%、対する国の令和5年の目標値69%以上を下回っています。

また、3カ月以上1年未満の退院率は50%です。1年時点の国の目標値は92%以上としていますが、比較すべきは3カ月以上1年未満の退院率ではなく、3カ月未満の

データも加えた退院率となります。この資料には記述していませんが、その数値は58%になります。

※①3カ月未満（退院者数25人、入院者数40人、退院率63%）

※②3カ月以上1年未満（退院者数10人、入院者数20人、退院率50%）

※③1年未満（①+②）（退院者数35人、入院者数60人、退院率58%）

次に10頁の地域移行、地域生活支援に係る多摩市の社会資源についてです。

（1）病院外来・診療所数では、病院外来数は6、診療所数は12と近隣市・類似自治体と比較してかなり多く、特に人口万対外来箇所数は、多摩地域市部でも2番目に多く、身近な地域で受診できる環境が整えられています。

（2）障害福祉サービス事業所では、居住系事業所数、日中活動系事業所数は人口規模を考慮すると平均的な設置数になります。地域活動支援センターについては、南多摩圏域内では唯一2つ設置しています。

相談支援事業所は、相談支援の担い手や困難ケースを支援できる事業所は不足しています。

11頁から14頁までは10頁の記述内容の裏付けデータになります。

11頁は病院外来・診療所数です。多摩市は南多摩五市の中では人口万対病床数は2番目に多く、人口万対外来数は1番多くあります。

12頁は居住系事業所数です。主な対象者に精神障がい者を含むグループホームの数は5、定員は33人になります。

13頁は日中活動系事業所数です。生活介護は3、就労継続支援B型は8、地域活動支援センターは2、自立訓練、就労移行、就労継続支援A型は0となっています。

14頁は相談支援事業所数です。全体は12、精神障がい者を対象とする事業所は7、地域移行と地域定着はそれぞれ1となっています。

参考として計画相談の利用割合をつけました。これは精神のほか、身体・知的障害の利用者を含んだものです。障害福祉サービス利用者のうち計画相談を利用している人の割合です。全体では約50.9%、18歳以上の障がい者では約71.3%となっています。

15頁は精神障害福祉関連事業の主な取り組み状況です。

16頁と17頁は地域活動支援センターの活動についてです。「あんど」と「のーま」の業務内容と具体的な事業について記載しています。

18頁と19頁は地域移行と地域生活についての課題です。今回は特にこちらについての課題と対応策をご議論いただきたいと考えています。

18頁は地域移行の課題についてです。2つの観点から課題を出しました。一つは「早期退院率」になります。この対応のため、居住場所の確保、医療との連携など、地域移行を妨げる要因を解消する必要があるとしました。もう一つは「長期入院患者数」です。高齢者が多く、居宅サービスを利用したの単身生活、共同生活援助やサービス付き高齢者住宅について検討の必要があるとしました。

地域移行に関係がある主体として、病院、家族、近隣住民、不動産屋、グループホー

ムをあげました。これらの主体への関係機関の対応策として、機関連携、普及啓発、家族支援、住まい確保の4つの観点から記述しています。これらの内容は前回の協議会でご議論をいただいた内容を反映しています。

病院に対しては、現存しているネットワークを活かして、現在行っている取り組みをより効果的にする、としました。

家族と近隣住民に対しては、障害に対する理解を深める、これは本人の希望と家族の希望がマッチしていないなどの課題に対応するためのものです。また、予防的な観点から学校教育の中でも精神疾患の正しい理解を進める、これは一般の人に興味を持ってもらえないなどの課題に対応するためのものです。

不動産屋とグループホームに対しては、不動産屋と一緒に考えていく、これは障害を理由に入居を断るケースがあるなどの課題に対応するためのものです。また、安心して入れるグループホームを確保する、これは、グループホームは増えてきていますが、運営や人員体制が不安といった課題などに対応するものです。

そのほか、地域移行の課題に対しての「研修」「地域移行」の観点からの対応策を今回の協議会でご議論いただきたいと思います。

19頁は地域生活の課題についてです。平均生活日数の観点から課題を記述しました。精神障がい者の精神病床からの退院後の一年以内における平均生活日数の向上のためには、定期的な通院や日中活動場所など本人が気軽に相談できる環境整備が必要としました。

地域生活に関係がある主体として、本人と家族をあげました。これらの主体への関係機関の対応策として、機関連携、家族支援、ピアサポートの活用、アウトリーチ支援、退院後の医療等継続支援、研修の6つの観点から記述することを想定しています。機関連携、家族支援は前回の協議会でご議論をいただいた内容を反映しています。

機関連携の観点からは、精神障がいの方に対しても高齢者に対する包括のような立場で動ける人を確保する、これは病識のない方への対応です。

家族支援の観点からは、障害のケアマネを確保して相談窓口とする、これはセルフプランをやむを得ず利用している方への対応です。また、どなたでも継続的にフォローできる地域の相談支援体制を構築する、現状は障害福祉サービスを利用していることが前提になっていることへの対応です。

そのほか、地域生活の課題に対しての「ピアサポートの活用」「アウトリーチ支援」「退院後の医療等継続支援」「研修」の観点からの対応策を今回の協議会でご議論いただきたいと思います。

20頁以降は各機関の現状・課題などのまとめになります。今年度は委員の皆様にも精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを進める上での各機関の現状と課題について、「機関連携」など9項目の観点から記述した協議シートを作成していただきました。それらを集約したものを掲載しています。

只今の資料説明でも申し上げましたとおり、特に資料1の18頁「【課題】地域移行」と19頁の「【課題】地域生活」について、課題や対応策について、ご議論をいただき

	たいと思います。
資料1に関する 質疑応答	<p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩市の精神障がい者は大体何名くらいいるのか。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障がい者の定義についての捉え方にもよるが、精神保健福祉手帳の所持者数が一定の目安になると思われる。令和5年4月1日現在2,125人である。</li> <li>・その他、自立支援医療費の受給者は3,155人になり、手帳を取得した方も概ね含まれている。精神科に通院されている方の割合と把握できる。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9頁の資料にはない58%の説明を再度してほしい。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料にはないですが、3か月以上1年未満の入院者数は20名、退院者数は10名ですので、退院率は50%となっております。</li> <li>・国の退院率の目標値は、3か月以上1年未満の退院者数に加えて、3か月未満の退院者数を含めて1年未満の退院率を目標値92%としております。</li> <li>・多摩市では、1年未満の退院者数35名、入院者数60名ですので、退院率は58%となっております。※資料1の9頁追記いたします。</li> </ul>
協議内容 1. 地域移行 について	<p><b>【会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域移行、ピアサポートの活用について議論していきたい。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在東京都がピアサポート研修を実施しており、市内でも活躍いただいている方がいるが、市としては具体的なピアサポートの活用は行われていないので、ピアサポートがどのような場面で活躍してほしいか、どのようにしたら地域移行につながるのか意見をいただきたい。</li> </ul> <p><b>【会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院でもピアサポートの活用にいたっていない。</li> <li>・現状では、主治医の了解をとり、入院患者に退院後の外来患者と話し、実際に退院後の生活のイメージが持てるようにサポートしている。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性、男性の慢性期病棟にNPO法人の担当者が来て、月2回茶話会を行っている。制度のことや当事者の話を聞いてもらっている。退院への動機づけに効果的だと感じている。</li> <li>・同じNPO法人が運営するリカバリーカレッジに患者が出席している。啓発の場としても活用されている。三鷹市でも参加しているので多摩市でも参加して活用していけたらいい。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リカバリーカレッジとはイギリスで始まった取り組みである。リカバリー（回復）に</li> </ul>

	<p>向けて、当事者のみでなく支援者を含め、地域住民と一緒に学んでいこうとする取り組みである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リカバリーカレッジ多摩は、1/27（土）開催し、講座を行った。就労支援の話や当事者3名のリカバリーストーリーを話した。地域活動支援センターでの現状はどうか。</li> </ul> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサポートの活動はまだ行っていない。</li> <li>・月2回女性限定での茶話会を行い、登録者同士がお互い辛かったことなどを交流する場を設けている。個別に声をかけている。</li> </ul> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所の設定はなく、個別で相談員が相談にのっている状況である。</li> <li>・今後、交流の場などの意向はあると思うので協力していきたい。</li> </ul>
<p>協議内容 2. アウトリーチについて</p>	<p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチについて協議したい。病院は苦手な部分だと感じている。</li> </ul> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院では同法人内で訪問看護ステーションがあるので、外来通院となったケースについても連携を図っている。通院が中断しても訪問看護が入っていて対応できることが多い。</li> <li>・課題に感じているのは、「精神疾患患者の家族に向けての支援」「通院が中断している患者への支援」である。もともと家族教室は、「統合失調症」「認知症」「アルコール」3つ展開していたが、アルコール患者向けに関してはコロナ禍から休止中である。</li> <li>・家族の関わりが変わることで支援につながることを実感している。</li> </ul> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の家族教室について、年間どのくらい行っているのか。</li> </ul> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間8回程度開催し、5～10名の参加がある。</li> </ul> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センターで、アウトリーチは行っている。保健所が関わっているケースの訪問をして話を聞く。6か月間と期間が決まっており、保健所と協議し対応している。短期的に集中的援助を行い、アセスメントを行い、支援方針を協議している。</li> <li>・前期、後期に研修を行っている。</li> </ul> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未治療の方の相談に対応している。</li> </ul> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在地域の課題としては、計画相談事業所が他市を比べて少ないため、行政機関、関係機関と連携して対応していると思われる。</li> <li>・病識のない方への支援に関しては、市では令和6年度から重層的支援体制整備事業が始まることも踏まえ対応を検討していく。</li> </ul> <p>【委員】</p>

・病識のない方への支援は難しいが、その人の困りごとから介入していくのがいいと思われ、関係機関の連携が重要だと感じる。

・病状が悪化する前に介入ができるといい。

**【委員】**

・高齢者の対応においても、訪問すると家族が精神疾患で、治療が長期に中断していると伺うことが多い。

・治療中断している方や病識のない方への支援では、フローや病院や保健所の役割分担があるのか。

**【会長】**

・病院では、予約時に状況を確認するが、時間が経つとニーズがない場合もある。虐待等は通報義務があるので連絡を取る場合もあるが、それ以外の関わりは難しいと感じる。

**【委員】**

・生活保護を受給されている方にも精神疾患を疑われる方がいる。対応については、保健所や関係部署に相談して対応することも多い。

・親が亡くなり初めて子の問題が発覚することが増えている。病識のない精神疾患が疑われる方に必要な医療を受けてもらうには、本人の意思がないため難しい。

**【委員】**

・地域移行に関しては、リカバリーカレッジや地域活動支援センターが居場所を作ったりしている。

・医療等の連携に関しては、地域支援者を含めた退院時のカンファレンスが重要と考えている。再入院をさせないように体制が必要と感じる。

・普及啓発が重要であるので、発信はされているが、学習できるような取り組みができるといい。

**【会長】**

・課題の抽出と整理については、今回の議論を取りまとめ協議会の報告とさせていただく。

**【委員】**

・病院としては、本協議会が始まり、地域移行については重要な課題と考えている。5年以上の長期入院者の5%が退院すれば地域移行実施加算がある。

・当病院で、2023年での5年以上の長期入院者は155名であった。院内で地域移行推進委員会を開催し、看護師を中心に具体的なアセスメントを行い、地域に戻れるよう取り組みを行った。結果、9名の方が退院となった。9名の退院後の居所については、5名が特別養護老人ホーム、2名がグループホーム、2名が自宅であった。ただし、1名が再入院している。

・今年度（2024年度）は、長期入院者136名で、7名の退院を目標にしている。退院への支援がうまくできてきている。

**【委員】**

・現在障害福祉計画等の改定を行っている。長期入院者の退院率等の目標値については、

	<p>国の方針に基づいて、東京都が設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市では活動指標として、にも包括の開催回数や参加者数を評価指標し、議論をして成果としたい。</li> </ul>
<p>協議内容</p> <p>3. 当事者の意見聴取について</p>	<p><b>【事務局】</b></p> <p>資料はございませんが、議題につきましてご議論をお願いしたいと思います。</p> <p>前年度に委員の皆様の本協議会の進め方について、アンケートをさせていただきました。その中で、現段階で本協議会に参加していない当事者や事業所などの意見反映について、どのような方法をとるべきか設問を設けました。</p> <p>いただいた回答では、当事者、事業所のそれぞれについて「アンケート調査の実施」「スポット的に協議会に参加してもらう」協議会の新たなメンバーに加える」といったご意見がありました。</p> <p>ここで本協議会として、多摩市の地域アセスメントがまとまりましたので、来年度は当事者や事業所にご意見をいただきたいと思ひます。</p> <p>つきましては、意見を聴取する当事者、事業所の対象、どのように聞くか、どのようなことを聞くか、ご議論をいただきたいと思ひます。</p> <p>例えば、当事者については、ピアサポートの活動をされている方に来年度の次回協議会に来てもらい意見交換をする。事業所については、精神障がいの方を対象とする就労継続支援 B 型事業所やグループホームに事務局がアンケートを送付して回答していただき、協議会に報告するといったことが考えられます。事務局からの説明は以上です。</p> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局案としては、当事者を支援している事業所にはアンケートをとることを考えている。</li> <li>・当事者には、本協議会に出席していただき実際に意見を伺うことも検討したが、どなたに出席していただけるといかなど委員の意見を伺いたい。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見聴取はどのような事業所、当事者を想定しているか。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所は、グループホーム、就労継続支援 B 型の事業所、計画相談事業所を想定している。</li> <li>・当事者は、退院後ピアサポートの活動をされている方などを想定している。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような意見を聴取するのか。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困りごとや行政機関等の協力を得たいこと、本協議会で検討した課題が、現場の当事者や支援者と認識が合致しているのか等を確認できればと考えている。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域移行が難しいことが課題なので、障壁になっていることを聞けたらいいのではな</li> </ul>



	<p>いか。</p> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリカレッジなど、実際に活動されている方に、話を伺えばいいと思う。</li> <li>・アンケートに関しては、事前に協議会委員に共有できたらいいと思う。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの病院でのアセスメントシートについて、詳しく伺えるといい。何があったからうまくいき、何があったから障壁になっているとわかるのではないか。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の地域移行アセスメントシートは、看護師、精神保健福祉士など多職種で作成した。本人の退院に向けての意向やADL、経済状況を基に専門職の見立てをチェックする様式である。</li> <li>・他市では、入院中の当事者への退院への意向のアンケートを実施した場合もある。</li> <li>・次年度は、近隣市の病院に調査することやアセスメントシートの内容を把握するなどを検討するといいいのではないか。</li> </ul> <p><b>【会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートで伺うことと実際に伺うことにそれぞれメリットデメリットがある。</li> <li>・意見聴取の方法についての工夫はあるか。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活でどのようなことに困っているかは、家族会で家族から意見を聴取するのがいいのではないか。</li> <li>・どこに相談すればいいのかもわからなかった家族も多いので、家族から困りごとを伺えるといいのではないか。</li> </ul> <p><b>【会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困りごとやどのような支援があればよいかを伺えるといい。今支援につながっていない方への聞き取りをどのようにすればいいのかも課題と感じる。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所に関してはアンケートを次回協議会で報告を目指すことでよろしいでしょうか。</li> <li>・当事者の聞き取りに関しては、意見を踏まえ会長副会長に相談することでよろしいでしょうか。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会には訪問看護事業所、家族会の方に実際に来ていただいて意見を伺うことも検討したい。</li> </ul>
2. 次回について	<p><b>【事務局】</b></p> <p>今回は新年度に開催しますので、この場では決めずに、新年度に入りましたら日程を調整させていただきたく思います。</p> <p><b>【会長】</b></p> <p>新年度に入りましたら、事務局から連絡があるということでした。それでは本日はここまでとします。お疲れ様でした。</p>

